煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集＊ 渡部
TEL 046-223-0110

安全・安心まちづくり旬間（全国地域安全運動）の実施

１０月１１日（火）から１０月２０日（木）までの１０日間、県内一斉に「安全・安心まちづくり旬間」が実施されます。この「安全・安心まちづくり推進条例」に基づく活動であり、従来、全国で一斉に取り組んできた「全国地域安全運動」と一体化させて取り組むことにしたものです。

この運動は、「みんなでつくろう安全の街」をメインスローガンに地域住民やボランティア、自治体の関係機関・団体と警察が連携して街頭活動を強化するなど、地域に密着した防犯活動を展開することによって、地域安全活動の浸透と密着化を推進し、地域住民等との協働による安全で安心して暮らせる地域社会の実現を図ることを目的としています。

◎ 実施重点

１ 子供と女性の犯罪被害防止
２ 振り込め詐欺の被害防止
３ ひったくりの被害防止
４ 自転車盗の被害防止
５ サイバー犯罪の被害防止

です。

皆さんの協力があってこそ地域の安全が図られます。宜しくお願い致します。

「特殊詐欺撲滅対策推進強化期間」の実施

～特殊詐欺検挙・予防対策にご協力を～

県警察では、振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺撲滅対策を推進強化し進めます。「期間」として一〇月中を検挙・予防対策を撲滅

◎県内で発生している主な手口

○○○オレオレ詐欺
還付金等請求詐欺
架空請求詐欺

◎被害に遭わないために電話で次のことを言われたら、「サギ」と考え、直ぐに警察へ通報してください。

・「今日お金が必要だ。」と言われた。
・「会社の同僚や上司に『お金を渡して』」と言われた。
・「イクATMを操作して還付金が戻ります。」と言われた。
・パック、レターパック、宅急便、バイク便で現金を送れ。」と言われた。
・何よりも他人事と思わないこと。
・意外と自分の払戻しは大丈夫」と思わないこと。

○ 何よりも他人事と思わないこと。
○ 意外と自分の払戻しは大丈夫」と思わないこと。
○ 確かに電話で詐欺だと用件を告げず留守番電話の設定をしましょう。
○ 電話の相手が話し始めたら、常時留守番電話に切り替えます。
○ 電話を把握するグループ電話は、以前から実際に電話して事実確認しましょう。
○ 電話番号には電話せず、以前から電話番号の確認ができた徹底した電話番号に電話して事実確認しましょう。
○ 息子や孫さんが電話でお金を要求するよう子面識のない家族だ必ず相談してください。
○ 信頼出来る第三者に相談してください。
○ 絶対にお金を渡さないでください。

事件記録板

８月中の事件は、

８月、煤ヶ谷地区は皆さんの協力もあり事件はありませんでしたが、厚木市内では、未だ、タイヤ、バッテリー盗が発生しています。

また９月６日、厚木市内でオレオレ詐欺が発生し、約１４００万円被害がありました。絶対にこうした詐欺にも騙されないよう、風邪で声が変った、電話番号が変わったなど「変った」という言葉を言われたら要注意です。

深夜に犯罪防止のため、パトロールする場合がありますが、極力音がしないように心掛けていますが、実は、犯人にとって、防犯上誰かいる、パトロールしているという微かな音でも、非常に敏感で非常に脅威であり、一番効果的なんです。音に対するご理解をして頂くと幸いです。

駐在所の独り言　～映画を観て感動をしませんか？！～

皆さんににとって充実した人生ってどんな人生でしょうか？悩みやストレスがないと思っても漫然とした生活をしていれば、これも楽しい人生と実感出来ないのかもしれません。黙って待っていても誰も楽しい事を提供してくれませんから、自分から楽しい事を見つける事が大切です。疲れていたり時間の余裕がない時でも、映画なら観る事が出来るのではないでしょうか？今まで多くの映画を観て来ましたが、時折、過去観てきた感動の映画を思い出します。その１つに有名な「アンコール」というイギリス映画があります。無口で頑固じいさん（アーサー）は、とっつきにくい性格が災いして、息子ともうまくいかないが、唯一、笑顔になれるのは、最愛の妻マリオンの前だけ。陽気で明るいマリオンの趣味は、ロックやポップスに挑戦するシニアばかりの合唱団「年金ズ」で歌うこと。そんな時、喜ぶマリオンにガンの再発が告知されます。アーサーは、マリオンが参加出来ない事から、たっての妻の頼みで妻の代わりに渋々、合唱団の扉を叩くことに。アーサーは、明かる過ぎるほど個性豊かなメンバーに逃げ出すが、妻のため家族とため仲間のため、大切な誰かのためならと、国際コンクールの選考会に出場することに。そこで優勝出来なかったものの本当に夫婦愛、家族愛、仲間愛の素晴らしさに感動しました。息子との関係がぎこちないものの、根底には愛情があります。お互い不器用だからこそ想いが伝わらないが、最後は言葉はないものの、その想いが伝わることになります。この映画を観終わって、ふと映画のタイトル名が何故アンコールなのか分からなかったのです。でも暫く考えたところ、分かりました。合唱団の歌も素晴らしく、アーサーの歌も素晴らしかったのですが、もう一度歌が聞きたくてアンコールではなく、人生のアンコールだったのです。つまり、漫然と生活をしてても人生楽しく送れないという事です。自分が楽しみ、また周りを明るくするするなど、自身の人生愉しむために再スタートさせることなのです。でもこの映画は、ハッピーという印象で終わらず、最後は、かつて病身のマリオンのベッドを温めていた湯たんぽを傍らに置き、一人でベッドに入る場面で終わります。家に帰れば冷たいベッドがあり、現実が待ち構えているのに変わりないのです。ここでどう生きるか、アーサーが今後どうして生きるていくのか、余韻に浸り今後の人生をいかに生き甲斐を持ち、素晴らしく、またどう充実させるかを考えさせてくれる映画だったのです。村民の方々の高齢化が進んでいますが、どうか映画鑑賞など自分の楽しい事を見つけて、振り返れば良い人生だったと実感出来るよう生き甲斐を持って頑張って生きて欲しいです。